



Council of Road Construction Worker's Unions(C.R.U.)

道路建設産業労働組合協議会

〒104-8380

東京都中央区京橋1-19-11 (日本舗道労働組合内)

電話03 (3562) 5857

URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~cru>

撮影：加藤 雅美
大分県玖珠郡やまなみハイウェイにて (大成ロテック社員組合)

21世紀にトライ!



議長 丸山 祐二
(日本舗道労働組合)

道建労協の皆様、あけましておめでとうございます。

20世紀後半の50年間は日本の労働組合の歴史においてめざましい進展があった反面、最

後に急ブレーキがかかり、特に建設産業においては回復の兆しが見えないまま21世紀を迎えることとなりました。21世紀はこれまでの体験からは想像できない速さで変化していくことでしょう。組合活動も敏感に対応する組織作りが求められます。

ところで「労働時間の短縮」と言えば、建設産業の定番かつ永遠の課題と受けとられがちです。厳しい環境下、「今はそれどころではない」と思われる方も多いことでしょう。

建設業界はまさに自社の生き残りをかけて、労使一体となった企業の体質強化に全力を傾けています。しかしながら今一步視野を拡大し、建設産業の望ましい将来像の追求についても並行して取り組む必要があるのではないのでしょうか。永続的な産業基盤の確立と快適な職場環境を誰もが望んでいます。土曜、日曜に出勤の上、代休もとれない産業は建設産業だけと言っても過言ではないでしょう。

21世紀においてもこの状態が続けば産業自体が人材難となり、建設業は社会の流れからさらに後れをとるでしょう。21世紀に道建労協の進むべき道は、加盟各単組の支援とともに建設産業の産業別組合としての役割を果たすことです。

建設産業は就業人口の10%を占める最大産業です。建設産業全体が良くなければ道路建設産業も変わりません。建設産業にも大変革が必ず来ます。今から組合組織の強化を図っていくことです。産業別組合として大組織のない現在、建設産労懇を軸とした組織の再編成を見据えた取り組みが必要です。大変革の時、道建労協の仲間が一枚岩で立ち向かうことのできる柔軟かつ強力な組織を育んでおくことです。2001年はまさにそのスタートと言えます。一步一歩築きま

しょう。皆様方の一層のご理解とご協力をお願いいたします。「建設業も土日は当然休むもの」という社会を一刻も早く築こうではありませんか。建設産業一つに切り拓きましょう。「21世紀にトライ!」

フリーウェイ

先日、メンタルヘルスセミナーを受講する機会を得ました。一つは過労死問題を担当された弁護士の方のお話。もう一つはストレスを抱えた方と向き合っているカウンセラーでした。弁護士の方は電通過労自殺訴訟を取り上げ、最高裁の判断が紹介されました。電通の職場環境は道路業界と類似する部分も多く、企業の注意義務が満足に図られていない現状を思うと薄ら寒い気持ちで聞かざるを得ませんでした。また、カウンセラーの先生は悩んでいる者のストレス源を知るためには、情緒的支援として「聞くこと」ではなく「聴くこと」が大事だとしていました。「もう少し話しを聴かして?」と受容的態度、共感的理解をもって話しを聴ければと思います。「頑張れ!」はストレスを高めるだけで逆効果だそうです。二つのセミナーを聞き、自己防衛としてのメンタルヘルスの重要性が早く広く認識されることを期待しました。

(前田道路労働組合 長野)

労働組合の未来へ向けて

平成12年11月22（水）、23（木）の2日間にわたり、千葉県船橋市セミナーハウス クロス・ウェーブにおいて単組役員研修会を開催しました。当研修会は次代の労働組合を担う単組役員の育成を目的として行っていますが、今回も前年同様、研修会終了後、関東地協幹事会が開催される為、地協幹事を含めた加盟10単組、総勢31名の参加者となり、ベテラン、次世代を担う役員共に有意義な研修がとり行えたと思います。

1日目は、丸山議長の挨拶から始まり、工川副議長による「道建労協の活動について」というテーマで道建労協の組織、目的、活動方針、今後の目標についての説明が行われ、質問形式も取り入れながら道建労協に対する認識を更に深めてもらいました。又、丸山議長による「労働組合に関わる法律について」の講義は、労働組合に関係する法律を問題出題、解答という形式で行い、学生時代に学んだおぼろげな記憶を頼りながら問題に取り組む役員の姿がとても印象的でした。

又、グループディスカッションでは、「現場で出来る土曜休日取得」というテーマを設定し、討議、発表、質疑応答という流れの中で、今後の道建労協の活動の方策を見いだすヒントが得られたように思われます。

夕方からは、翌日の模擬団交における団交内容の設定説明、要求書作成提出が行われ、ようやく1日目が終了しました。

2日目に入り、模擬団交開始。1組「現場手当の増額」2組「帰宅旅費の見直し」3組「年間一時金の増額」という団交テーマに対し、会社側、組合側に分かれ実践しながらの交渉が行われ、交渉中に模擬団交ということのを忘れてしまったかのように感情が前面にでる場面もありました。今後、各単組で行われる団交をはじめとした交渉の際に必ず役立つものと思われました。

2日間という短い期間で研修を消化した単組役員からは、研修内容も充実しており有意義な時間を過ごせたとの感想も得られました。

研修というものを通じ、同じ目的を持つ仲間が一同に介し、人と人との繋がりが形成されていく姿をみると、各単組での取り組みにも必ず通じるものと実感できる有意義な研修会の開催となりました。

（副議長 佐藤宗吾）



作戦会議



模擬団交 組合vs会社

建設産労懇第2回総会開催される

去る平成12年10月23日建設産業労働組合懇話会（以下、建設産労懇）の第2回総会が、東京・ホテルラングウッドにて開催されました。

建設産労懇はご存じのとおり、私たち道路建設産業と同じく建設産業の各産業別労組組織が集まり、各種の情報交換や建設産業の発展のための政策活動などを行うことを目的に86年1月に組織され、現在私たちの道建労協の他に「建設連合」「日建協」「全電工」「全国通建」「長谷工グループ」を加盟単組とする約17万人の労働組織です。

総会は2部形式で行われ、はじめに会長挨拶、来賓挨拶に続き99年度の活動報告、2000年度の役員選出、同じく活動計画案が討議され、その後前述の6組織からそれぞれの活動方針の説明がなされました。休憩を挟んだ後半は、2000年度に取り組む重点課題として取り上げた①土曜休日取得活動の推進、②サービス残業の解消の2点について分科会形式で各課題の現状と問題点の抽出を試みました。筆者は「土曜休日取得」の一分科会の座長を務めました。各組織、企業とも建設業を取り巻く厳しい環境下において時短への取り組みは急務との認識はあるものの、現状は発注者事情（工期、工程の制約等）、工事の小規模化、施工体制（協力業者等）の問題等厳しさを訴える声が体勢を占めました。産業別にみると業態の違いから、全電工・全国通建にあっては休日出勤の振替システムがほぼ確立されており、他産業は「工期に余裕がない建築工事」に代表されるごとく各種の要因で「土休」「振休」が取りづらいという実態があります。私たちの分科会では時間的制約もあり結論を導き出すには至りませんでしたが、最終の全体会議で各分科会から報告がなされ、これらのレポートを今後専門部会で活用していくことが確認されました。

総会は道建労協の丸山議長の閉会挨拶で幕を閉じましたが、2000年度の建設産労懇事務局長に道建労協の長野氏が就任し、今後ますます私たち道建労協の活動、発言が産業政策活動に重きをなすとの実感を深めた総会でありました。

（副議長 黒沢武典）

一斉休業運動要請！

九州・中部地区合材協会をターゲットに

11月の「第2・第4土曜日の事業所一斉休業運動」に先立ち、道建労協では個人個人や単組毎の取り組みではなかなか改善出来ない問題を業界全体の取り組みとして前進させて行こうと、各加盟単組の企業と業界団体を訪問し、この運動への理解と協力求め要請を行った。特に今年は、九州地区と中部地区の各県のアスファルト合材協会と加盟単組企業を訪問し、合材工場の閉所を地域の問題として推進してもらうよう要請を行った。

特に合材協会をターゲットとしたのは、中国地方を初めとする一部の地域では、合材工場が第2・第4土曜日の出荷を停止しており、合材工場のみならず、工事部門も土曜休日を取得しやすい環境が来ている例があり、合材工場の土曜閉所が土曜休日取得に大変有効であるため、他の地域にも範囲を拡大したいとの思いからである。実現のために地域の協会役員と直接対話をし、厳しい労働環境の現実と組合員の心情を訴え、またその地域の特性を聞きながら、一個人一企業では進まない土曜休日取得を、地域全体の目標としてもらうためである。今後も集中的に各県の合材協会に対し要請と情報の提供を行い、土曜休日取得ができる環境の実現に向け、全国に展開していく予定である。

今回の「第2・第4土曜日の事業所一斉休業運動」が達成出来なかった事業所も、日頃よりの職場全員での「休む努力」が大事です。あきらめてしまうことなく個人の努力を積み重ね、事務所ぐるみで取り組むことで少しずつでも前に進むことは可能です。皆で休めるよう頑張りましょう。

（事務局長 長野 滋）

10月14日 福岡県アス合材協会、日本舗道(株)九州支店、前田道路(株)九州支店

10月15日 長崎県アス合材協会

10月16日 熊本県アス合材協会、鹿児島県アス合材協会

10月17日 宮崎県アス合材協会

10月24日 日本道路建設業協会、日本アス合材協会

10月26日 愛知県アス合材協会、大有建設(株)、大成ロテック(株)中部支社、日本舗道(株)中部支店

10月27日 岐阜県舗装技術研究会合材部会、前田道路(株)中部支店、東亜道路工業(株)中部支店

●●中部地協レク活動報告●●

ソフトバレーボール大会開催

去る11月25日（土）、中部地協ソフトバレーボール大会を港区港栄の邦和スポーツランド体育館内で開催致しました。

開催は今回で2回目ですが、前回よりも沢山の方に参加して頂けました。特に今回はファミリーそして女性の参加者が多く、ゲーム開始の合図ホイッスルと共に、男女交えてのゲームが和気あいあいと始まりました。

しかし、ゲーム開始からまもなく、『パパ頑張れ〜』とお子さんの声援、それに負けじと『黄色い声援』が場内を飛び交い始めました。するとゲームはしだいに白熱し始め、さらにパパはもっと白熱！していました。これに刺激されたのでしょうか？応援をしていたお子さんも、空きスペースでボール遊び、そして交代待ちの選手は、特訓？をしている風景が見られました。

後半は昼食を取ってからでしたが、早々と終えた選手達は練習に励んでいました。その成果でしょうか、優勝を果たしたのはフジタ道路労組でした。2位日本舗道労組・3位東京舗装労組・三井道路労組JVと決まりましたが、本当の優勝者は『パパ頑張れ〜』と応援をしていた、お子さん達だったような気がします。

中部地協レク部長 菅井正和（東京舗装工業社員労働組合）



クリスマスパーティー開催！

12月14日、建設連合愛知との合同クリスマスパーティを名古屋新栄のプチヴェール名古屋で開催しました。

本年も道建労協本部から丸山議長にも参加いただき、総勢123名の方たちが参加。交流に、ゲームに、楽しいパーティとなりました。

パーティは中部地協レク部の菅井部長の総合司会で開会。丸山議長の乾杯のあと、日頃のできない他単組の方、また建設連合愛知の方たちとの交流が始まりました。

食事の方も、立食パーティに加え、前年に好評いただいた屋台も出店。皿とビールを両手に持ち、ここぞとばかりに食いだめする野獣(?)の姿が目立ちました。

アトラクションでは、好評の人間ビンゴゲーム。豪華な景品を目指して「ビンゴ」の声が会場中に響き渡り、単組対抗生ビール+コーラ+アイスクリームの早食い競争リレーでは単組の名誉(?)をかけての大熱戦が繰り広げられました。

最後は中部地協の新井議長の挨拶で閉会。参加された皆さんは、ゲームでゲットした景品を大事に抱えながら、イルミネーションの街の中に消えて行きました。

このパーティも毎年企画時に頭をヒネらせますが、会場で参加者たちの顔を見てみれば、やはり中部のイベントとして皆さんが大事にしてくれているのがよく伝わってきました。

「さあ、次は春のイベントを考えようっ！」と頭を切り替えて、報告とさせていただきます。 中部地協事務局長 竹山周作（全大有労働組合）



サンタさん、ご苦労様です



大丈夫?

第10回道建労協北海道地協定期総会報告

第10回の節目となる北海道地協定期総会が10月20日(金) 18:30からホテルライフオート札幌において行われました。大会には、北海道地協7単組から各5名の代議員の他、来賓として本部丸山議長、佐藤副議長、澄川中央執行委員を招いて開催されました。

大会議長には日本舗道労組の亀山組合員が選出され、議事を進行了しました。北海道地協の翁議長（三井道路労組）から建設産業の厳しい環境状況等が説明され、99年度経過報告、決算報告、会計監査報告のあと2000年度新役員が選出されました。議長には三井道路労組の翁信次氏、副議長には東京舗装工業労組高橋博久氏、日本舗道労組小山内静雄氏、事務局長には日本舗道労組の井上徳好が選出されました。今後一年間よろしくお願いします。

また議事の最後には、総会開始前に実施したアンケートの質問に地協幹事や本部役員が返答する時間を設け、熱心に討議が行われました。

北海道地協は2000年度も、レクリエーションを中心とした各単組の交流会を活発に行い、さらに組合員としての自覚を持ち、道建労協の発展に努めて行くことを誓い合いました。

北海道地協事務局長 井上徳好（日本舗道労働組合）



とにかく走った20キロ 本部駅伝大会に挑戦！

さわやかな秋空のもと平成12年10月8日(日)に東京都中央区主催の駅伝大会において道建労協本部チーム4名が駅伝大会に挑戦した。とはいえ、編成は全て大成ロテック単独チームで、新旧副議長+助っ人?2名での初挑戦となった。

開会式では、顔も明るくリラックスムードで、スタート3分前になっても煙草をくゆらす余裕さえあり、かつ全員経験者とのこと。かなりの期待を感じた。

「ヨーイ、スタート」

一人5kmコースを4周、計20kmの競技である。かなりペースを押さえ、余裕でトラック半周を駆けぬけてから一般道へ出た。15分ほどして続々ランナーが競技場に飛び込んでくる。我が道建労協チームはいくら待っても来ない。そのうち先頭集団の2番手が戻ってきた。それから約1分後、やっとわがチームが最下位で帰ってきた。そこから2番手、3番手がそこそこがんばったものの差は一向に縮まらず、とうとう4番手は屈辱?の繰り上げスタートとなった。それでもアンカーががんばり、順位をぐいぐい上げと言いたいところであるが、結局60チーム中57位入賞となった。記録1時間42分26秒。優勝とは約40分差。結果はとにかく解説者がゴール「道建労協チームただ今ゴール!」と叫んでくれ大感激。反省会では「来年はもっとたくさん参加しよう」とのことで意見が一致。懲りないのかこのメンツは。茶化すように書いたが本当に皆精一杯がんばった。来年も同じメンバーで出よう!皆で応援に行こう。(個人記録 第1区、山本浩也31分36秒、第2区、高橋忠司25分16秒、第3区、佐藤宗吾23分39秒、第4区、森平大志21分55秒) (議長 丸山祐二)



物知りクイズ当選者発表

前回の「オリンピック特集」(第51号PAVE)の当選者が決定いたしました。今回は難問のようでしたな！正解者少数(57%)により、お年玉として応募者全員に粗品をお送りいたします。ご応募ありがとうございました。

前回の答え

- Q1 ③田島寧子(400メートル個人メドレー、銀メダルでメチャ悔しい！)
 Q2 金は5個(日本はメダル18獲得。銀8、銅5)
 Q3 ②ロシア(足の長さで勝った？最強シンクロチーム)
 Q4 ②中村俊輔(サッカー決勝トーナメントPK戦でのファーストキッカー)
 Q5 33(マラソンの高橋選手のゼッケンNO. 2008)
 Q6 オージー(オーストラリアの国の愛称)
 Q7 ②アメリカ(冬のオリンピック、ソルトレイクシティ)

当選者(敬称は省略させていただきます)

松原 泰明	(全大有労働組合)
的埜 知洋	(全大有労働組合)
堀 加代子	(全大有労働組合)
黒川由美子	(全大有労働組合)
元宗 久美	(全大有労働組合)
市川 由紀	(大成ロテック社員組合)
鱒淵 誠	(東亜道路労働組合)
芦岡 智勇	(日本舗道労働組合)
横山 満	(日本舗道労働組合)
長谷川義宏	(フジタ道路職員組合)
鎌田 勝	(前田道路労働組合)
相馬なおみ	(前田道路労働組合)
藤岡 精	(前田道路労働組合)
洞鶏 幸子	(三井道路労働組合)

これからも物知りクイズをよろしくお願いいたします。

グローバルクイズ「時事問題」

前回のシドニーオリンピック問題に続き、今回は21世紀にふさわしい世界を駆けめぐる時事問題をクイズにしました。挑戦してください。

- Q1 世界を騒がせた第43代米大統領は結局ブッシュ氏に決まりましたが彼は何党ですか。
- Q2 2001年1月から日本の各省庁が再編されましたが従来の建設省は運輸省、国土庁等と一緒に何という省庁になりましたか。
- Q3 またその省庁の大臣の名前はなんと言いますか。
- Q4 昨年のノーベル平和賞の受賞者は誰ですか。
- Q5 今年のNHK紅白歌合戦はどちらが勝ちましたか。

〈応募方法〉下記を明記してお送りください。正解者の中から抽選で粗品をお送りします。たくさんのご応募をお待ちしております。

- 回答
- 賞品送り先住所・氏名および所属単組名
- 締め切り 2/28
- 今月の紙面で良かった点、気づいた点がありましたらご意見も是非お寄せください。
- 宛先 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 日本舗道労働組合内 道路建設産業労働組合協議会『PAVE』宛 FAX 03-3535-4810 URL <http://www1.ocn.ne.jp/cru>

※発表は次号(4月発行予定)

単組委員長登場！



前田道路労働組合 桑原委員長(最前列 左側)

桑原委員長の紹介

前田道路労働組合の中央執行委員長は桑原則行と申します。動物でいうならば「小柄な野生の熊」というところでしょうか。日頃はもの静かに構えてハチミツを舐めておりますが、一度牙を剥くと最後まで全力で立ち向かいへこたれることを知りません。飲み会の場でも一緒です。最初は和やかにしておりますが、いつの間にか走り出し、最後はいつもはじけ飛んでしまいます。もし、委員長と同席する機会がございましたら、まずソルマックを飲んで、次にカプセルホテルの場所を確認してから、向かいに座って飲み勝負してあげてください。(死んだふりをしても無駄ですよ。)

ちなみに「動物占い」によりますと黒ヒョウでした。(黒ヒョウタイプの好きなことは「リーダーになる」ことだそうです。調べてみてびっくりしました。)

さて、真面目な委員長の紹介となりますと、昭和59年入社39歳の寅年生まれで、入社と同時に札幌支店(現北海道支店)へ赴任しました。道内の江別市、帯広市、札幌市内の工事事務所・合材工場で営業事務をしており、大きな声と細かな気配りで事務所を切り盛りしていました。誰が呼んだのか、その後本店へと転勤。組合では平成6年8月から書記長、平成10年から中央執行委員長を務め現在にいたっています。委員長になって3年目に入り、大胆な行動と緻密に積み上げた理論で、一層組合員のために活動してくれるものと確信しています。

小学校の頃は、お父様の仕事の都合で3年間ほどアフリカで生活をして以来の国際派？委員長ですので、皆さんフランクに声を掛けてあげてください。しかし、あまり度を過ぎると原住民の槍ならぬ竹刀が飛んできますのでご注意ください！

(紹介者 前田道路労働組合 書記長 長野誠)

編集後記

業界は相も変わらず厳しいですが、何はともあれ新世紀！10年ぶりに逢った友人に“オマエ老けたなあ〜”といわれ大ショック！

自分ではイケテル35歳のつもりが、いつの間にかオヤジの仲間入り。

鏡をまじまじと見てタメイキひとつ。髪の毛や肌の艶はしょうがないとは思えるが、どうしても元氣のない自分に気づく。

業界が悪い、会社が悪いと責任転嫁しても何の解決にもならない。自分を磨く、自信を持つ、自信を持つには努力する、何を努力すれば自信が持てる、自問自答の末に中途半端なところで妥協する自分を発見する。

新世紀をむかえ若輩ながら35年という短い年月を振り返ると、学校を卒業し、会社に入り、家庭をもち、以前とは比べようもないシガラミが取り巻いている。そのシガラミの一つひとつに妥協を許していたら、心の病が蔓延する現代に自分まではまっとうに行くことが確実である。会社定年まで25年もある、中途半端な妥協ができないくらいに自分を追い込んでみようと思心に決めた2001. 1. 1である。

これから年度末に向けて益々忙しくなります、心身共に健康に気を付けて無事故、無災害で頑張りましょう。

(大成ロテック社員組合 佐藤)